

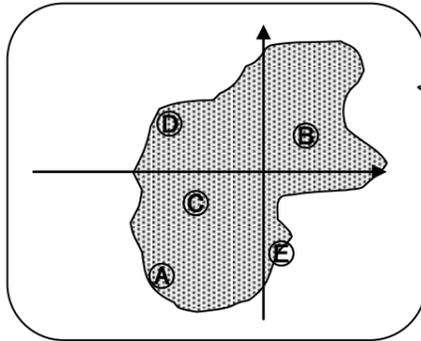
Q-U 学級支援シート 記入例

○△ 中学校 1年 2組

R eserch 学級集団の調査・アセスメント

児童生徒数 (29) 人
男・女 (16 ・ 13) 人

1. 現在の学級集団のプロット図 (5月20日 実施)



学級満足度尺度 の4群の分布状態
 満足群 (13) 人 (45 %)
 非承認群 (10) 人 (34 %)
 侵害行為認知群 (2) 人 (7 %)
 不満足群 (4) 人 (14 %)

学校生活意欲尺度の領域の特徴
 高い領域 → (友人・学習・学級・教師・進路)
 低い領域 → (友人・学習・学級・教師・進路)

※小学校は、(友人・学習・学級)のみ

2. 個別支援が必要な児童生徒の問題と考えられる点

①	E 夫	気の合う友達がいなくて一人でいることが多く、不登校傾向。
②	D 夫	落ち着きがなく、人を傷つける言動が見られ、注意されることが多い。
③	H 美	部活や授業でよく頑張っているため承認感をもっと高いと思われた。
④	C 美	陰で文句を言うことがあり、よく不満をもらし、周りを巻き込む。
⑤	F 郎	ふだんは無気力なことが多い。B男と一緒にA夫をからかう。

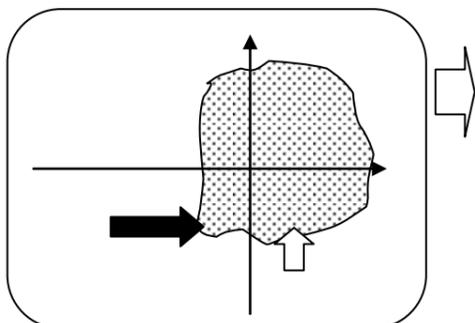
3. これまでの取組：これまで力を入れてきた取組を3つあげましょう。あなたから見てその取組の効果について、次の1～5のうち一つを選んでください。

(5 十分できた 4 だいたいできた 3 わからない 2 あまりできなかった 1 不十分だった)

チャイムが鳴ったら着席し、授業中は静かにする学級の雰囲気を作る。	5・4・3・2・1
人を傷つけるような言動はしない学級づくり。	5・4・3・2・1
個々の生徒の気持ちを大切にしたい教師と生徒の人間関係づくり。	5・4・3・2・1

V ision これからの取組の方針

1. 目指したい学級集団のプロット図



2. 目指したい学級集団：左の図で表した学級集団は、どのような集団ですか？

- 人を傷つける言動がない学級集団
- 学習に対して落ち着きを持って主体的に取り組むことができる学級
- 悩みがあれば相談できる担任と生徒との関係

3. 支援のバランス：次回実施時まで次の2点についてどのようなバランスをもって取り組みますか。



P lan 具体的な取組の手立て

学級集団への支援	日常の学級活動 学校行事を利用し、一人一人に役割を持たせ、役割を遂行することによって学級集団への帰属意識を高める。
	授業 小グループで問題解決型の学習を取り入れ、終わりの時間には振り返りの時間をとる。
	特別活動・行事 特活の時間に短時間でできるSGEのエクササイズを継続的に取り入れて人間関係づくりに取り組む。
	校内・校外連携・保護者対応 支援が必要な生徒について家庭との連絡を定期的に行う。
	(個別支援) 定期的に個別面談を行い、生徒の気持ちに耳を傾ける。機会をとらえて肯定的な言葉がけをする。

D o 実際の取組

校内合唱コンクールに向けて全員に役割分担をして取り組んだ。

担任が担当する授業(国語)で、月に2回程度行った。

2. 3回実施したが、継続することができなかった。

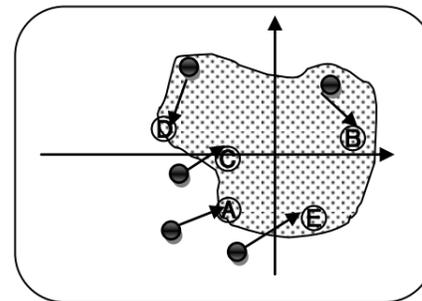
E郎とA夫について家庭訪問を行って、家でのようすを聞いてきた。

定期考査の後、一人15分程度、面接を実施した。声かけの時の言葉に配慮した。

個別支援	① 今から家庭との連絡を取り合う。個別面談だけでなく、グループづくりをする。
	② トラブルが起きたときには必ずすぐに個別面談を行い、落ち着かせる。
	③ 個別面談時にとってじっくり話を聞くとともに、家庭での様子を尋ねてみる。
	④ トラブルが起きた時に責めずにじっくり話を聞いてみる。
	⑤ 学習への個別支援の軸に、放課後などに複数の教員でかわりを行う。

C heck 取組についての評価

1. 2回目実施時の学級集団のプロット図 (10月15日 実施)



学級満足度尺度 の4群の分布状態
 満足群 (15) 人 (52 %)
 非承認群 (6) 人 (21 %)
 侵害行為認知群 (5) 人 (17 %)
 不満足群 (3) 人 (10 %)

学校生活意欲尺度の領域の特徴
 高い領域 → (友達・学級・学習・教師・進路)
 低い領域 → (友達・学級・学習・教師・進路)

2. 前回と比べてどのような変化があったか。

まだまだ不十分ではあるが行事を通してリーダーの役割を果たすことのできる生徒が現れ、少しずつ学級としてのまとまりが出てきた。自分から担任に話しかけてくる生徒が少しずつ出てきた。

A ction 今後の取組に向けて

教師からの日ごろの肯定的な言葉がけについて気をつける。SGEについては特活の時間に継続的に実施するのは無理なので、授業やSHRなどの機会を用いる。①については、家庭内の複雑な事情もわかってきたので、今後は家庭との連絡を密にしていきたい。